

## 研究 1. 福岡県における院内肝炎ウイルス陽性患者への 受診勧奨システム導入の実態調査

### 研究 2. 健診施設におけるペッパー君による肝炎ウイルス受検の勧奨

研究分担者 井出達也 久留米大学医学部内科学講座、消化器内科部門 准教授

#### 研究要旨

研究 1. 【背景】院内で肝炎ウイルスを測定し、陽性であっても担当医がそのままに放置するケースが存在し問題となっている。この問題を解消するため福岡県肝疾患専門医療機関において、陽性患者を消化器内科や肝臓専門医に受診勧奨するシステムを導入しているかどうかのアンケートを 2017 年から 2019 年にかけて毎年行い、その後フィードバックを各病院に行い、そのシステム導入率が上昇したかを検討した。【方法】福岡県肝疾患専門医療機関(65 施設)に、院内肝炎ウイルス陽性患者への受診勧奨システムを導入しているか、導入していない施設では導入予定があるかをアンケート調査した。2017 年 7 月に初回のアンケートを行い、翌 2018 年 8 月にも再度同様のアンケートを行った。さらに 2019 年 9 月にも同様のアンケートを行った。【結果】2017 年は 40% (26 施設)の施設が同システムを導入しており、していない施設は 43%であった。2018 年は 58%(38 施設)の施設が、2019 年は 66%(43 施設)の施設が同システムを導入し、導入施設が増加していた。【結語】院内肝炎ウイルス陽性患者への受診勧奨システムの導入に、アンケート調査という形で介入し、動機付けすることで、そのシステムの導入に寄与していると考えられた。

研究 2. 【背景】職場健診において、ウイルス肝炎検査の受検率は低く、受検率上昇をめざし、協会けんぽでは、リーフレットなどを作成し受検勧奨をしている。今回ソフトバンクロボティクスのペッパー君を設置し、ウイルス肝炎検査の受検を勧奨した。【方法】福岡県久留米市の聖マリアヘルスケアセンターに、ペッパー君およびデジタルサイネージを設置し、ウイルス肝炎に関するコンテンツを導入し、3 週間にわたり調査した。【結果】ペッパー君導入では、8-9%でウイルス肝炎検査を受検し、デジタルサイネージでは、16%で受検した。通常受検率より 5%程度は上昇していた。【結語】ペッパー君やデジタルサイネージにより、受検率をアップさせることができた。今後さらなる向上をめざして、工夫が必要と考えられた。

#### 研究 1

##### A. 研究目的

病院内で手術等により肝炎ウイルスを測定することは多いが、陽性であっても、担当医がそのままに放置するケースがあり、問題となっ

ている。そこで福岡県における肝疾患専門医療機関(65 施設)に院内肝炎ウイルス陽性患者への受診勧奨システムを導入しているかアンケートを行い、実態を把握し、実際に導入している施設の事例をフィードバックした。2017

年、2018年、2019年とアンケートを行い、導入率が上昇しているかを検討した。

## B. 研究方法

福岡県における肝疾患専門医療機関(65施設;2017度は67施設であったが、減少したため現在ある65施設に統一して解析した)にアンケートを2017年7月、2018年8月、2019年9月に送付した。アンケート内容は、1)現在、肝炎ウイルス検査陽性の場合、患者さんへお知らせするシステムを構築していますか?2)患者さんへお知らせしていない場合、今後実施する予定がありますか?の2つである。医師向けのアンケートのためとくに倫理面には問題はないと思われる。

## C. 研究結果

(1)2017年のアンケートでは、49施設から回答を得られた。そのうち26施設(40%)の施設が同システムを導入していた。電子カルテシステムを利用している施設もあれば、電話連絡をしている施設もあった。システムを導入していない施設のおよそ40%が今後導入をする予定があると答えた。

(2)2018年のアンケートでは、56施設から回答を得られた。そのうち38施設(58%)が同システムを導入していた。2017年に比べ、11%の施設で導入が増加していた。しかし、まだシステムを導入していない施設も25施設(31%)あった。導入していない理由としては、次回の電子カルテ更新時に行う予定である、主治医に任せている、個人情報をお他の医師や職員が閲覧して問題ないのかを検討中、方法がわからない、などがあった。一方で、システム導入が済んでいる施設においては、チェックする職員や医師の負担があり、不満が出てきているなど新たな問題点を指摘している施設があった。

(3)2019年は、2018年でシステム導入をされていない、18施設にアンケートを行った。

5施設がシステムを導入し、前年と合わせると合計43施設(66%)がシステムを導入していた。

## 【成果】

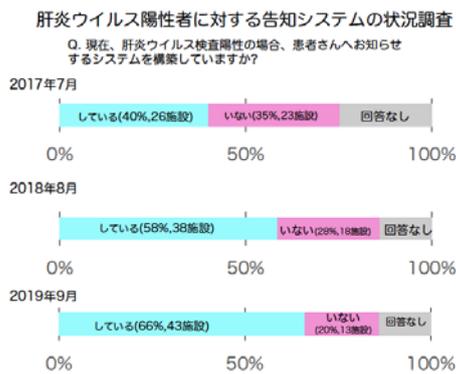
今回のアンケートを通して、以下のようなことが明らかになった。福岡県肝疾患専門医療機関に、アンケートを行ったことで動機付けが起こり、各施設での取り組みが進み、システムを導入している施設が2年間で、40%から66%に増加した。未だシステムを構築していない施設で、今後導入予定もあったが、導入に消極的に施設もあった。

## D. 考察

本研究で肝炎ウイルス陽性者への受診勧奨システムは、機能している施設が増加してきてはいるが、まだ構築していない施設やシステムを導入するも検証できていない施設もあった。導入していない施設も今後取り組む姿勢がみられたが、いまだ消極的な施設もあり、今後、取り組んでもらうために個別に事情を検討し、対処していく必要があると思われた。

## E. 結論

院内肝炎ウイルス陽性患者への受診勧奨システムの導入は進んでいる。今後再度フィードバックすることにより現在導入していない施設でも、今後の導入に役立つ情報を提供し、行っている施設でもより確実かつ簡便な方法を樹立する必要がある。



## 研究 2

### A. 研究目的

職場健診において、ウイルス肝炎検査項目が必須になっていない健診においては、その受検率は低く、通常 1%前後とされ、受検率上昇が課題である。中小企業の保険者である。協会けんぽなどでは、健診の案内と一緒にリーフレットなどを同封し受検勧奨をしている。今回ソフトバンクロボティクスのペッパー君を設置し、ウイルス肝炎検査の受検を勧奨した。

### B. 研究方法

福岡県久留米市の聖マリア病院ヘルスケアセンターに、ペッパー君およびデジタルサイネージを設置し、ウイルス肝炎に関するコンテンツを導入し、3週間にわたり調査した。1-2週目はペッパー君を設置し、3週目はペッパー君は撤去し、デジタルサイネージを設置し、同じ内容のコンテンツを流した。聖マリア病院内で倫理委員会により承認を受けている。なお設置や勧奨、データ解析は、同病院ヘルスケアセンターの肝炎医療コーディネーターの岡田尚子保健師、および福井卓子医師によって行われ、コンテンツは佐賀大学肝疾患センター、江口有一郎、藤岳夕歌によって作成された。

### C. 研究結果

1-2週目のペッパー君導入では、8-9%でウイルス肝炎検査を受検し、3週目のデジタルサイネージでは、16%で受検した。通常の受検率より 5%程度は上昇していた。

### D. 考察および結論

ペッパー君設置により、受検率をアップさせることができたが、健診であるため同時に人が来院し、ペッパー君に触れる人が限られていたこともあり、むしろデジタルサイネージの効果が高いことが判明した。さらなる受検率向上のため、今後もさらなる工夫が必要と考えられた。具体的にはコンテンツの更なる充実(インパクトのあるもの)やデジタルサイネエスの設置数、画面拡大などである。

聖マリアヘルスケアセンターへのペッパー君の設置



### F. 研究発表

#### 1. 論文発表

なし

#### 2. 学会発表

井出達也:「当県における肝疾患専門医療機関での院内肝炎ウイルス陽性患者の拾い上げに関する検討」パネルディスカッション 9, 消化器病学会雑誌 116 suppl March, A127. 2019

### G. 知的所有権の取得状況

なし

**1. 特許取得**

なし

**2. 実用新案登録**

なし

**3. その他**

なし